

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	東法より
Author(s)	妹川, 義男
Citation	龍南, 198: 62-63
Issue date	1926-07-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8859
Right	

東 法 よ り

大正十五年卒業 妹川 義男

冬ごもりの陰氣さから脱して貯られた潛勢力を空高く延さんとする春の若々しさが歸つて來ました。若かな青春の誇を胸に戴いて曾ては彷徨ひし御幸坂の櫻も既に其の若さの幾分を失つたことと思はれます。當地は今が見頃です。

生みの苦勞に苦勞を重ねた大學の入學試験もやつとの事で合格することが出來まして、赤門に雲集する五六百の新有權者と共に震災後の貧弱なバラツク教室に押詰められて諸教授一流の法律の講義を聽ひてゐます。憲法は美濃部、上杉兩博士の競争講座ですが、未だ上杉博士は出講されません。民法は吾妻助教授、刑法は小野教授、獨乙法は三浦教授、ローマ法は春木教授、國際公法は山田三良教授（未だ出講されず）、經濟學は河津通教授です。英法は高柳教授、佛法は杉山教授です。私は獨乙をやつてゐます。政治科には吉野博士の政治史があります。一寸講談式の變つた

講義です。法律學科は外國法（英、獨、佛）のどれか一つが必修になつてゐるのですが、政治科にはそれがありません。私は法律學科の方です。法律科に比すれば政治科は樂の様です。以上は一年の時に於ける課目だけです。制度は單位制度で一年の終り（三月）に一度試験があります。そして法律學科は必修科目十三單位、選擇科目五科目以上、政治學科は必修十四單位、選擇四科目以上をとれば卒業出來る様なつてゐます。未だ學校の事に良くなれませんので勝手が分りませんが、その中に事情が知れて來ましたら、最近の大學の模様を御知らせ致します。そうすれば後進の諸君に御話し下さる紹介の手引ともならんかと存じて居りますので。

他の科は別でせうが法科は何分五六百人の多數の事ですから（一年だけで）、講義の時などは少し遅く學校に行けば後の方の席で先生の話も良く聽きとれません。丁度其光景は演說會のシーンの様です。皆法律・政治兩科は一所の講義です眞實に勉強しようと思へば全く獨りで一生懸命勉強するより外ありません。研究の題材を二三考えてゐますがこれから勉強して行く積りですから先生の御教導の程、從

東通り御願ひ申します。講義等では殆んど獨乙語が使用されるので、獨法は其點では大いに便利です。

序でに入學試験の答案用紙が手許にありましたので御参考までに御送りします。非常に良い紙でインキの散る様なことはありませんでした。

御存じの事とは存じますが、今度の試験問題は、從來の型とは全然違つて文學的哲學的のものが出ました。今後こんな風になるのだらうと思つてゐます。私は随分知らない單語がありまして、或は推量で當つたものもあれば、或は間違つたのもありましたし、實は譯が出来ず非常に心配してゐたのです。然し作文は割に良なつた様です。譯などは單語は知らなくとも全体として纏つた譯をつけるが得の様に思はれます。現在の様に語學だけの成績を見ることは誠に不確なものです。或る教授は高等學校の時の優等生が良く落ちるがと云つて度々抗議を申込んで來ることがあるが、大學で要求する人物は、高等學校の優等生とは又違つた意味に於けるものであるとか云つてゐました。入學試験の答案は度々御注意を受けました様に繰々も奇麗に書くことが大切なことを痛感しました。

くだらないことを拙い字でくどくどと書き立てましたことを御許し下さい。

先づは龍南生活に於ける先生の御教導を感謝致しますと共に、感想の斷片を御参考までに御花むけ申す次第です。

先生の御健康を遠く祈りつゝ筆を擱きます 草々

四月十七日

竹内良三郎様